

ベントグリーンを夏越しさせる9つのSTEP

STEP 6 【初秋】

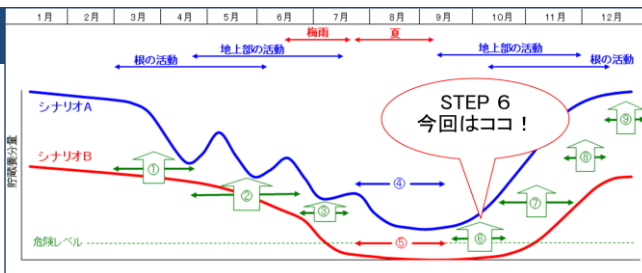
「すばやい回復を促す」: 現状の見極めと対処



- 夏の終わりから本格的な秋の始まりまでの、地上部は回復開始したが、根はまだ活性が低いという、過渡期の対応です。

気象・芝・土壌の状態

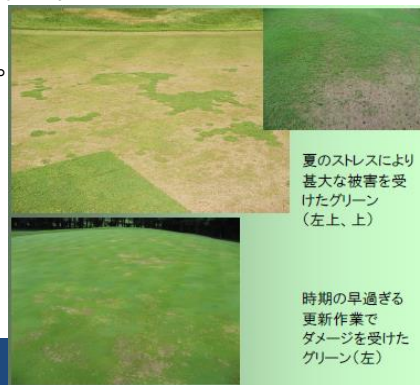
- ・ 温度が下がりはじめ、光合成と葉の伸びは次第に回復
- ・ しかしまだ根の適温より高く、根の活性は低い
- ・ 貯蔵養分は少しずつ回復し始めたが、まだ低い
- ・ 夏の間、土壌表層の透水性・通気性が下がっている
- ・ まだ高温多湿で病害・害虫・藻などが発生しやすい



管理目標＝底を打ったベントを、速やかに本格回復期へ移行させる

気温が下がり始めると刈草も増え、夏越しも峠を越したように思え、秋に向け更新作業等を始めたい時期ですが、まだ無理は大敵！ 次のような課題があります。

- ・ 根の活性がまだ低く、水や養分（特にリン・カリウム）の吸収が不足、光合成も低い。
- ・ 光合成が本調子でなく、呼吸量もまだ多いので、余剰炭水化物は少ない。
- ・ 余剰炭水化物の大半を葉と根の回復に費やすので、貯蔵養分はまだ少ない。（回復初期には貯蔵養分全部をつぎ込んで、一時的にフルクタンがゼロも）
- ・ 炭水化物が低いので、新たな酵素・葉緑素・新根・分げつの形成は低調。（そのため窒素施肥をしても反応は鈍く、窒素過剰にしてしまいがち）
- ・ 夏の下葉・根の枯死や藻で、土壌表層の透水性・通気性が下がっている。更新作業をしたくても、根が弱く、早すぎる作業は芝を傷める危険が大。（根を傷めてしまうと、なかなか回復できない）



管理作業のポイント

本格的な秋の生長（Step 7）が始まるまでは、フルクタンで光合成と炭水化物収支を確認し、葉身中のカリウムで根の状態を確認しながら、根に負担をかけずに光合成を回復させることが重要になります。

【ポイント1】 根の活性に合わせた、液肥によるスプーンフィーディング

- ・ 吸収の良い尿素や亜リン酸、光合成に必要なマグネシウム、夏に下がったカリウムを液肥で補給、光合成を確保（炭水化物に余裕が無い間は窒素反応が鈍いので、うっかり窒素をやり過ぎないように、葉身の窒素も確認）

【ポイント2】 サプリメントで、根と葉の活性を高める

- ・ サイトカイニン、微量元素、抗酸化物質などで光合成活性を上げる
- ・ フルクタンが低い場合には、アミノ酸・糖・有機酸の点滴補給で、回復を早める

【ポイント3】 根と貯蔵養分の状態に合わせた更新作業で、根へ酸素供給

- ・ フルクタンが低く根が弱いうちは、根に負担の低いベンチング・スパイクング
- ・ 薄めの浸透剤の定期使用で、更新作業の不足をカバー
- ・ 根の張りや貯蔵養分の増大を確認したら、次第に強い作業へ

【ポイント4】 耐暑性品種の追い播きで、特に落ち込んだ部分の回復促進・カタビラ侵入抑制

- ・ 夏に特に密度が下がった場合には、スパイクングと同時に耐暑性新品種をインターシードし、その秋の被覆を促進し、翌年以降の夏越しを改善させる

【葉身分析目標値】

- ・ Pはアップ（0.6%以上）、他は夏と同レベル（N: 4.0~5.0%・K=2.0%以上・Mg=0.2%以上）を確保して、光合成をの促進を図り、できるだけ早いフルクタンの回復（10mg以上）を目指す。

この時期のおすすめ資材・機材

【K-ビルダー、フェロメック】

吸収の良い尿素を含む液肥で、窒素をスプーンフィーディングしながら葉身窒素を適正に確保

【シェイプアップ】

重炭酸カリウムとマグネシウムが光合成と炭水化物代謝をアップ、貯蔵養分の回復を促進

【TKOフォスファイト】

吸収の良い亜リン酸で、光合成と細胞分裂を促進

【Foltec The ZEN】

サイトカイニン・微量元素などのサプリメント類の施用で、光合成の回復を促進

【スパイカー/シーダー、マレード V-スパイカー、コアマスター+スパイクタイン】

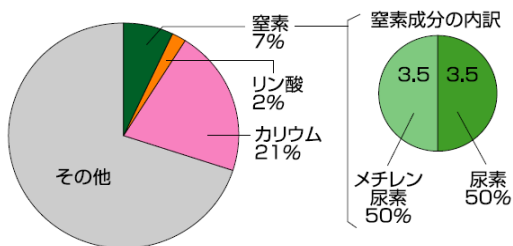
弱った根に合わせたスパイクング・ベンティングで、土壌表層への酸素供給

【962・L-93】

ベンティングと同時に耐暑性新品種のインターシードで、落ち込んだ部分の被覆を促し、翌年の夏越しを改善

K-ビルダーとTKOフォスファイトで、NとPをコントロール

吸収の良い尿素を中心に各成分をバランスよく含んだK-ビルダーを、薄くスプーンフィーディングして、葉身の窒素を過不足なく維持。同じく吸収の良い亜リン酸を含むTKOフォスファイトも併用すれば、夏に下がった葉身のリンを回復させ、光合成を確保できます。



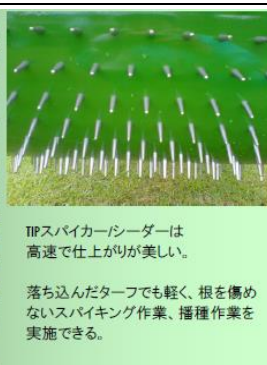
K-ビルダーは吸収の良い尿素、緩効性窒素、カリウムをバランス良く配合しています



重炭酸カリウム・マグネシウムが、光合成をアップ、炭水化物代謝もアップ

クロロフィルの中心元素マグネシウムと、炭水化物代謝に欠かせないカリウム、光合成を促進する重炭酸塩のコンビネーションが、弱ったベントグラスの活力をアップ。

秋口の回復を加速し、耐暑性、耐寒性、耐病性を高めます。



TIPスパイカー/シーダーは高速で仕上がりが美しい。

落ち込んだターフでも軽く、根を傷めないスパイクング作業、播種作業を実施できる。

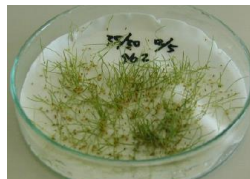
高速で仕上がりの美しい、TIPスパイカー/シーダー

無数のスパイクによるごく浅いスパイクングで、根にやさしく酸素を供給します。L-93や962などの耐暑性品種を同時にインターシードできます。

962。最強の耐暑性品種

高地温条件下で選抜育種された、高温でも生育可能な能力を持つ、新次元の耐暑性ベントグラス品種。

耐暑性の低い従来品種で夏の落ち込みの大きいグリーンにインターシードすることで、グリーンの越夏性を年々改善していくことが可能です。高温下でも発芽するので、晩夏～初秋の播種で、スズメノカタビラに先んじて生育・被覆します。



昼35°C/夜30°Cの高温でも、「962」(左)は濃い緑の芽が伸び続けるのに対し、ベンクロス(右)は葉が退色、生長が止まっています。(播種後3週間)

→ 「STEP 7」に進む

※葉身分析目標値：過去の分析結果から弊社が独自に設定した、時期毎の暫定目標値です。随時改訂しています。

東洋グリーンはベントグラスグリーンの夏越しを応援します



東洋グリーン株式会社

本社 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-33-8 浜町アクセス
TEL 03-3249-7731 FAX 03-3249-7781

東日本営業部 TEL 03-3249-7735 大阪支店 TEL 078-903-6776
名古屋支店 TEL 052-505-8880 九州支店 TEL 0942-43-7234

ホームページ <http://www.toyo-green.com/>

お問合せ info@toyo-green.com